若者たちへの期待と対策

議長　それからこれは重点施策の中の一つとして非常に頑張っていただいている問題の一つですが、教育、民生、人づくりの問題です。

従来、熊本県は教育県として知られております。またこれを誇りにしております。それにつきましても工業化が進行する中で、世はまさに情報化時代を迎えようとする転換期にあるといわれております。このような時代に対応する人づくりということも大切なことではなかろうかと思います。

また、大事な問題としては次の世代を背負って立つ青少年の対策ですが、総合的な指導育成を図るための拠点ともなる。青少年対策課ともいいますか、こうした一つの課が設けられるならばとも思います。このことは民生労働部長さんにもお願いしているわけですけれども、これればかりで課の設置には無理なようでしたら、この中に消費者行政というようなものを兼ねて考えていただくなら非常にいいのじゃないかと思います。

知事　いままでは県内で育てた子供達が一人前になると県外に出て行く。県外で働いて県外で消費する。郷里に帰ってくるということが非常に少なかったものですから、教育をする方にしても張り合いがなかったと思います。最近のように若い者が郷里に残るという傾向が強まってきますと、教育する方でも張り合いがでてくると思います。同時にまた郷里に残る若い人達がここで楽しく暮らせるように施策をいままで以上に強化しなければならないと思っております。折角、議長さんがご提案でございますし、そこいらの問題は十分われわれで考えて、郷里に残った人達が楽しく暮らしができるような体制をつくっていかねばならないと思っております。

議長　是非一つ、そういうことでできましたらお願いしたいと思います。

ところでこれは最後になりましたが、ことしの県政は何を重点的にやっていただくかということですが……。

知事　ことしは、一番の重点として考えていることは若い者にたくさん郷里に残ってもらうことをねらいとして、県行政を進めていくということです。

議長　さきほども申し上げましたように、それも大切だと思いますが、農政の新しい方向づけとか新幹線の早期実現とか、あるいはまた熊本の新しい港の計画等も大いに考えていただきたいと思います。

□ 人の和と〝勢い〟と

知事　おっしゃることは、いずれも県内の大型プロジェクト、となっているとこです。それをだんだん具体化していかないと、若い者が郷土に魅力を感じなくなる。大いに若い者が郷土に踏み止まってくれるような目標で県政をやっていきたいと思っております。

議長　そういうことで、総合農政のお世話をしていただくとか、農外所得を高める問題とかありますが、なるほど工場誘致をすることによって総合農政の一端になるのだというご意見にはごもっともだと思うわけです。しかし、農外所得をふやすための基盤整備を急いでいただくと、熊本県はいろんな面で開発可能性をたくさん持っていると思います。そういうようなものを一つ一つ知事さんが県の方策として積み上げていただきたいと思います。こうしたことで可能性を引き出していただくということが、知事さんの務めではなかろうかと思うのです。

知事　おっしゃるとおりでございます。

議長　新県計画の最初の年でもございますし、県政の飛躍の第一歩を意味するという見地からも戦略的なことを十分やっていただくようにお願いしたいと思います。それは総合農政であり、九州新幹線の熊本延長でもあり、高度化のための基本線じゃなかろうかと思うわけです。

そういうことが着々と進められてきますと、県議会としましても、県政の方向について、おしみないご協力ができるのではないかと私は確信するわけでございます。十二分に将来実のりあるものができますように、心からお願いいたしたいと思います。

知事　お話のとおり、ことしは一九七〇年、国としても新しい政治に踏み出そうとしている時です。県としても従来続けてきた県政発展の準備がようやく整って、ことしから大きく踏み出せる年ではなかろうかと思います。七〇年代に県議会と手をとり合って前進したいと思います。それと、このさい、県民の皆さん方の奮起と自重と、県政に対する理解と協力をお願いしたいと思います。なにごとも発展飛躍するためには人の和と時の〝勢い〟というものが必要です。いま熊本にはこの〝勢い〟に乗る諸条件が整ってきたようです。この機をのがさず私たちは手を取りあって勇敢に前進しなければならないと思います。熊本県政には人の和と〝勢い〟があると確信しています。

★新県計画〈総論素案〉発表★

活力にみちた郷土を築こう

―熊本県長期計画―

県は、昨年四月から新県計画の策定に取りくんできたが、このたび、第一編総論の素案を発表した。総論は、①計画の基本方向、②地域開発の課題、③開発の基本方向、④計画達成の手段、⑤昭和六十年の県勢展望の五章から成り、さきに発表した新県計画策定要綱や計画フレームをもとに、市町村をはじめ、新県計画策定会議や関係団体、中央省庁など、関係者の意見を取り入れてまとめたものである。

新県計画は、総論と各論によって構成され、各論についてはさきに十章から成る骨子を発表し、県議会などで検討中であるので、これとあわせて、さらに策定会議や県選出国会議員、国の出先機関など広く関係者の意見を拝聴し、本年度中に成案をまとめる予定である。

□ 計画の基本方向

今後、わが国の経済社会は、情報化社会、高密度経済社会の形成へ向かって、飛躍的な発展と画期的な変革を遂げていくものと思われるが、このような激しい変革の時代において、本県が国民経済の発展に遅れをとらない高い成長を維持し、全国的な地域開発競争に勝ち抜いて、豊かな住みよい郷土を建設するためには、県はもとより、県民のなみなみならぬ決意と努力が必要である。

単に豊かさや住みよさを求めるだけではなく、変革へのたえざる創意とあらたな可能性の発見、そしてその実現への努力によって、変化し流動する転換期の社会に即応できる活力にみちた郷土を築く必要がある。

そのため、「活力にみちた豊かな郷土の建設」を計画の基本目標とし、**①戦略的大規模事業の推進、②主導的産業の振興、③人間能力の開発と利用、④住みよい郷土建設**を施策の柱として、計画の総合的かつ重点的な推進につとめ、県勢の飛躍的な発展をはかる。

□ 地域開発の課題

▽九州中央都市軸の形成　新全国総合開発計画の札幌、東京、福岡を結ぶ新ネットワーク主軸構想や九州における中枢管理機能の集積地福岡という考え方では、日本列島の中央地帯に偏在している土地利用を、南九州へ拡大することができず、産業開発のための大規模開発プロジェクトについても、雇用効果の高い都市型工業の配置が充分に考慮されておらず、このままでは過疎、過密を激化させるおそれがある。

新ネットワークの整備効果を、大都市圏から経済開発の遅れた地方への分散の方向へむかわせ、過疎、過密問題の解決をはかるためには、福岡から熊本、八代へ至る九州中央都市軸を縦貫して新ネットワークを整備するとともに、この地域を中心に大規模な都市化工業化地帯を造成し、これを九州経済発展の主軸として開発する必要がある。

▽高能率経済社会の建設　県経済は、農業主導型から多部門成長型へ移行してきており、産業構造も高度化の方向にあるが、国民経済に比べるとまだ立ち遅れがみられる。したがって、今後、九州中央工業地帯の形成によって、雇用力の高い高度加工工業の立地を促進し、農林水産業、中小企業の近代化をすすめ産業構造の高度化と労働生産性の向上をはかる必要がある。あわせて高度化された産業と高水準の生産をになうことのできる新しい人間能力の開発と育成につとめ、高能率の経済社会を建設していく必要がある。

▽魅力ある地域社会の形成　都市的な生活様式の普及とモータリゼーションの進展などによって、住民の日常生活の行動範囲は広域化する方向にあるが、経済の発展とともにこの傾向は一層促進され、近代的な社会生活環境施設に対する住民の欲求も高度化してくる。したがって、広域の日常生活圏を単位として、道路をはじめ、保健医療、教育、文化施設など生活環境施設の総合的な整備につとめ、高度化された産業と生活の場にふさわしい魅力ある地域社会を形成する必要がある。

□ 開発の基本方向

▽戦略的大規模事業の推進　県勢の飛躍的な発展をはかり、活力にみちた豊かな郷土を建設するためには、発展の起動力となる大規模事業を積極的に推進する必要がある。そのため、新熊本空港、九州縦貫自動車道、九州新幹線鉄道など基幹的交通通信体系の整備と中枢都市熊本の開発、および九州中央工業地帯の形成、緑川・球磨川・菊池川・白川など河川の総合開発と圃場条件の整備、高原地帯農業開発、八代海総合開発、特定森林地域大規模開発などの産業開発プロジェクトを、戦略的に重要な事業として強力に推進する。

交通基盤については、建設中の新熊本空港を滑走路三千メートルの大型基幹空港に整備し、本格的な着工段階にはいった九州縦貫自動車道の開通を促進するほか、山陽新幹線に引き続いて福岡から熊本、鹿児島を結ぶ九州新幹線鉄道の建設を強力に推進する。さらに、これらの高